巻頭言

-国立医療の架け橋-

国立医療学会誌「医療」
編集委員長

大　島　久　二

IRYO　Vol. 68　No. 1（3）2014

新春のお慶びを申しあげます．

「医療」は，旧国立病院ならびに国立療養所の職員を対象として昭和21年に刊行され，本年で第68巻を迎えることとなりました．この間，我が国の医療は大きく進歩するとともに，幾多の荒波を受けてきました．こうした中，国立病院機構，国立高度専門医療研究センター，ハンセン病施設が一体となった国立医療学会は，日本全体の医療体制の前進に大きな役割を担ってきたといえます．

国立医療学会では，国立病院総合医学会としての学術集会を開催するとともに，学会誌として「医療」を刊行しています．「医療」の特徴は，医療を担う各職種が，患者の目線にたった一貫した医療を学術的に記録して共有することです．しかし，とくに学会構成員が“我が国全体”の医療を考え実行していくという，大きな視点を持っていることが大切な点と考えています．われわれは，最先端の医療，地域医療のみならず，結核，感染症，重症心身障害，神経難病，医療観察法における精神医療等，我が国の医療に必須であり，かつ民間医療機関では実施困難な医療を担っています．さらに災害時の緊急医療支援に加え，新型インフルエンザ防疫への支援とワクチンの緊急治験事業等，国家にとってなくてはならない重要で大規模な事業も担っています．これらの事業に対し，純粋な民間の医療機関では想定し得ない大きな自覚と目標を持ち得るのが，国立医療学会ならびに「医療」といえます．

「医療」は学術誌でありますが，最先端の医学領域のみならず，チーム医療，病院経営，医療データ分析など幅広い職種からの論文を掲載しています．その全体を眺めていると，我が国の医療における現場の問題点と実際の取り組みが見えてきます．国立高度専門医療研究センター，国立病院機構，ハンセン病施設という，各々目的を持っているものの国立医療という共通の大きな目標を持った国立医療学会という組織を母体として，その現場での実情と進歩を一望できる「医療」は，国立医療の架け橋といえるでしょう．

本年は，「医療」が国立医療の架け橋としての役割をはたせるよう，より多くの良質な論文を掲載していきたいと考えています．